　　2018.7.30　静岡県立こども病院図書室　塚田薫代　　　　　　　　　　　資料Ｂ-1

**問題解決志向に疲れたら…**

『看護教育』vol.59 (no.4) 2018年４月号　特集「問題解決志向に疲れたら…」ISSN 0047-1895

『ネガティブ・ケイパビリティ　答えの出ない事態に耐える力』帚木蓬生 2017.4 朝日新聞出版

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ISBN 4978-4-02-263058-2 \1300

**ネガティブ・ケイパビリティ**( negative capability )

負の能力

**「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようにない事態に耐える能力」**

ｐ.63

私たちの脳は、ともかく何でも分かろうとします。分からないものが目の前にあると、不安で

仕方ないのです。

ｐ.68

分かりやすくするための最大の便利帳が、マニュアルでしょう。

ｐ.78

ことにそれが著しいのが、私が受けた医学教育です。できるだけ早く患者さんの問題を見つけ出し、

できるだけ早く、その解決を図ることが至上命令になります。…これは言うなれば、ネガティブ・ケイパビリティとは反対の、ポジティブ・ケイパビリティの育成です。

ｐ.86

医師が患者に処方できる最大の薬は、その人の人格であるという考えは正鵠を得ています。…

英国の小児科医であり、精神分析家であったドナルド・ウィニコットは、ホールディング（抱える）という概念を提起したことでも知られています。…治療者は、患者が抱く苦悩を抱え続ける必要があります。

ｐ.200

学校にいますと、ときに指導困難、解決困難な事例に出会うことがあります。そんなとき、だれもが途方に暮れてしまうことになります。…今の時代は「こうすれば苦労なしで簡単に解決しますよ」

のほうが受けるのです。でも結局は行き詰ってしまいます。なぜなら「世の中にはすぐには解決できない問題のほうが多い」からです。…**問題解決能力だけでなく、どうしても解決しないときにも、持ちこたえていくことができる能力（ネガティブ・ケイパビリティ）**を培ってやる視点も、重要かもしれません。